

# 地域鉄道と地域の活性化

## ～ひたちなか市の事例～

ひたちなか海浜鉄道株式会社

令和2年2月18日

## 基礎情報



- ・平成20年4月1日営業引継ぎ
- ・ひたちなか市内だけを走る「第三セクター」
- ・勝田～阿字ヶ浦間（14.3km 合計10駅）を約27分で結ぶ
- ・1日36往復  
（約40分間隔）
- ・市の活性化  
にも貢献



# 存続の背景・経緯



- 旅客減で廃線申入れ 沿線も衰退化が深刻

(最盛期1965年 350万人 → 2007年 70万人)

→→→ ひたちなか市民が存続を希望

- 2007年(平成19年)9月  
「官民一体」で、湊線の活性化に取り組むことに合意

→→→ 存続決定 社長公募(民活)

- 2008年4月1日、茨城交通から鉄道部門を分社化

→→→ ひたちなか海浜鉄道 運行開始

## 地域との連携



- おらが湊鐵道応援団
- 商店街等とのまちづくり連携  
(三鉄ものがたり、3710屋実行委)
- 那珂湊焼きそば等との連携
- 第一日曜日 朝市 (JA、JF女性部協力)

**「地域の活性化＝鉄道の活性化」が社是**

# おらが湊鐵道応援団の主な活動



- ① 那珂湊駅の応援団サービスステーションの運営と観光案内
- ② 沿線の商店・飲食店・宿泊施設等と連携した「乗車特典サービス」の実施
- ③ 沿線でのアートイベントの開催  
例：MMM（みなとメディアミュージアム）…大学生と地元が一体化
- ④ 沿線自治会等による各駅の清掃や樹木や草花の植栽・除草作業の実施
- ⑤ 沿線神社等の協力を得て元旦早朝の初詣・初日の出列車運行
- ⑥ 応援団情報誌「おらが湊鐵道応援団報」の編集と発行



## 地域連携 活性化事例



**ビア列車運行の様子**

毎年所定運行に加え、要望により特別運行も多数



**遠足で中根駅を利用する小学生**

鉄道利用が年中行事となっている



**伝統の八朔まつりでは全町の風流物（山車）が那珂湊駅へ**

駅で休憩する殿山町の皆さん



## 地域と連携した活性化施策



### 地元・沿線観光地との連携

他にも、地元の商店街が鉄道と連携したイベントを実施

→沿線に活気，観光客が増加

鉄道の利用者も増加

⇒大きな相乗効果に！



連携イベントで人があふれる商店街

- 利用者・地元市民としてのアイデアと要望  
が取り込める ⇒ ダイヤ改善、年末ダイヤ
- 商店街活性化と直結 ⇒ 実のある連携
- 那珂湊焼きそば連携 ⇒ アピール効果大
- 第一日曜日 朝市（JA、JF女性部協力）  
⇒ 買い物難民救済、鉄道アピール

**「地域の活性化＝鉄道の活性化」が社是**

## 行政の役割

- 市民感情の醸成  
日立製作所の城下町、高い自治会組織率  
こうした情勢を踏まえ「応援団」づくり
- 市長の積極的リード  
ひたちなか市は、公共交通機関を  
ないがしろにしない
- 人材派遣  
行政と鉄道事業者の橋渡し  
鉄道事業者の負担軽減

- 安全施設設備投資（鉄道軌道安全輸送等設備整備事業）  
国1／3 茨城県1／3 ひたちなか市1／3  
車両更新、全般検査、その他安全施設への投資
- 固定資産税分補助（上下分離の考えを適用）  
ひたちなか市 固定資産税支払額内で経常損失補助
- 修繕費補助（上下分離の考えを適用）  
開業8年目まで、茨城県・ひたちなか市が修繕費  
の範囲内で経常損失を1／2ずつ補助

## 市長も ともに（行政が積極的かつ効果的にリード）



## 那珂湊高校生発案

ひたちなか市非公認キャラクター「みなとちゃん」  
(この他、インターンシップ受入)



鉄道と地域の活性化のお手伝い

## 地元利用を基本に 加えて観光誘致

- ・ 運行本数増 途中駅交換設備設置 終電延長23時50分
- ・ 新駅設置 (コミュニティレール化補助を活用)
- ・ 通学定期券大幅割引 年間定期券新設
  - 定期客、観光客とも増加 増収
- ・ 国営ひたち海浜公園へのアクセス改善
  - 最盛期にシャトルバス運行
  - 予想を大きく超える利用 = 延伸計画持ち上がる
  - その3割がおさかな市場へ = 地域活性化

・アニメ・ゲーム・キャラクターとのコラボ企画

「コロプラ」とコラボしたフリー切符  
 「世界一楽しい片道きっぷ」  
 アニメ「ガールズ&パンツァー」とコラボした乗車券



・新型車両の導入，旧型車両の活用

キハ11形  
 キハ37100形  
 キハ3710形

ミキ300形

キハ205形



・キハ3710形



・ミキ300形

新規観光需要の掘り起こしに成果  
 (海浜公園へ向かう3両満車のお客さま)



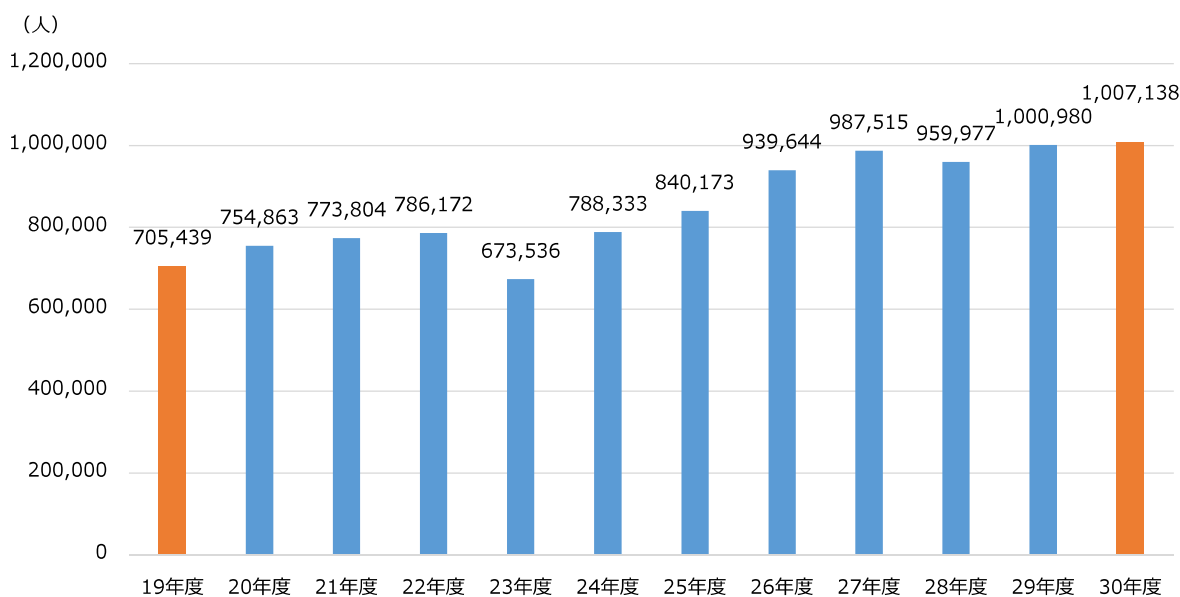


- ・ 三鉄ものがたり 茨城県商店街活性化コンペ最優秀賞  
(2015,2016年 2年連続)
- ・ MMM 駅名標 グッドデザイン賞 (2015年)
- ・ ローカル鉄道・地域づくり大学 グッドデザイン賞  
(2017年)
- ・ 応援団 総務大臣表彰 (2011年)、いばらきイメ  
ージアップ大賞(2011年)、国土交通大  
臣表彰 (2017年)

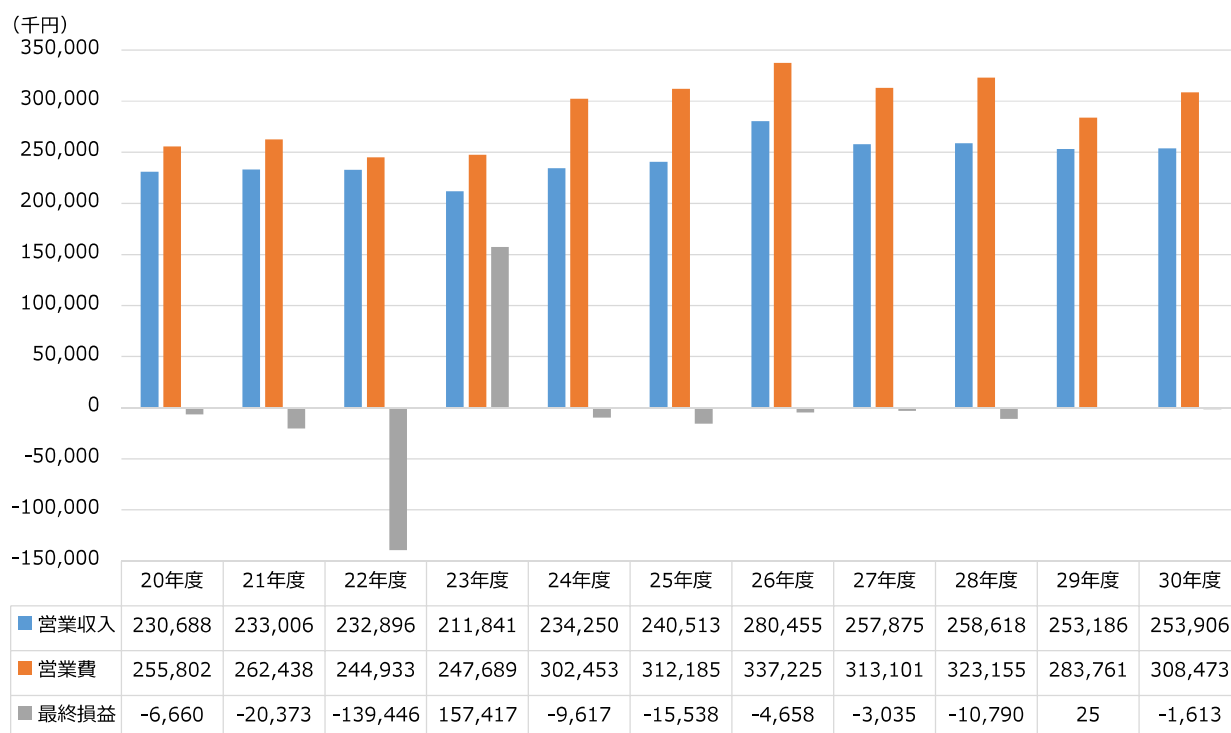
## 市民協働が最大の力

- ・ 市民のみなさん (応援団、商店街)
- ・ 行政 (ひたちなか市、茨城県、国) 通学定期宣伝でも
- ・ 地元高校 (インターンシップ、割安定期券販売)
- ・ 観光連携 (海浜公園、アクアワールド、宿泊施設)

## 輸送人員



## 営業収入・営業費・最終損益



## 平成29年度決算（開業10年）

年間輸送人員 100万人  
(1,000,980人)

単年度収支 黒 字  
(2万5千円)

達 成

が、人口減・少子化等不安材料多々  
平成30年度燃料費高騰で再び赤字

## 小中統合校と駅新設

### 5小中学校統合

→ 沿線に駅を新設し鉄道通学

通学の安全確保と鉄道活性化

## 守りから攻めへ 国営ひたち海浜公園への延伸

約3.1 km 工費78億円

20万人（公園来場者の10%）利用増だけで  
= 20万人×1000円 = 2億円（鉄道増収）

うち3割が沿線で買い物&食事  
= 6万人×3000円 = 1億8千万円（経済効果）

この他 海浜公園周辺大規模商業施設、新駅設置  
による通勤通学など、潜在需要大  
= 沿線人口減少への対策効果期待  
**攻めは 守りなり**

## ピーク時の深刻な交通渋滞





**国・行政・事業者負担が各 1 / 3 なら  
事業者負担は 26 億円**

- ・ 初年度から黒字
- ・ 地域経済に大きな効果（お土産・食事）

**含めて「湊線は地域鉄道および地域の  
活性化最先進モデル&転換点」**

**ローカル鉄道・地域づくり大学 8 月  
サマースクールでノウハウ伝授  
ご参加を**